

聞きたい
言いたい

資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞

すずき ゆみこさん
鈴木 由美子さん

自然科学分野の女性研究者育成を目的とした第6回資生堂サイエンスグラントで、全国10人の受賞者に選ばれた。研究テーマは「有機触媒反応を用いた医薬品候補化合物の合成(がんや感染症治療の新薬の研究)」。静岡市出身、46歳。上智大理工学部准教授。



とつぎょう便

ウィークリー

―受賞の感想は。

「学会の賞とは異なり、幅広い分野の人に自分の研究や計画を評価していただいたことはすごく励みになる。女性研究者はまだまだ少ない。体力的に大変だし、男性社会のネットワークに入っていくのが難しいと感じる時もある。今回のような賞や

作用のある化合物や、感染症の

医薬品となりそうな抗菌作用のある化合物の合成を進めていく。ひと言で言うと、新しい薬を作るための研究だが、もともとは新しい化合物を作るための新しい方法の開発に力を注いできた。自分たちが発見した有機触媒反応を利用し、社会に役立つ

化学研究の魅力伝える

助成は心強い

―どのような研究に取り組んでいるのか。

「有機化学が専門。今は抗がん

ような化合物を合成したい。抗がん剤開発に関しては、製薬会社や静岡県のファルマバレーセンターとも共同研究している」

―新薬開発には長い年月がかかる。

「一般的に早くて15年とか、20年とか言われるが、開発にはいろいろな段階があり、われわれがすべてに携わるわけではない。有機化学の部分で言えば、化合物の中で実際に薬になるの

はごくわずかの確率。初期段階で、これは薬になるかもとヒックトするのが2万分の1くらいで、そこからさらに選別が進む」

―化学を志したきっかけは。

「小学生のころ、キュリー夫人やガリレオ・ガリレイの伝記を読み、漠然と科学者になりたいと思ったのが最初。高校、大学と進むに連れ、化学の授業の実験操作を楽しく感じるようになった。水蒸気蒸留や再結晶とか。化学は難しいと見られがちだが、薬、香料、化粧品など実は生活と密接に関係している」

―今後の抱負を。

「楽しく研究している姿を示して、学生たちに少しでも研究者になりたいと思ってもらいたい。知識や技術だけでなく、人間的に成長できるようにも指導したい。成果が出ずに苦しい時もあるけど、地道に続けることが無駄ではないと伝えていく」